

アート Kommission・ヨコハマ (ACY)

2024 年度 (令和 6 年度)

事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
令和 7 年 3 月 31 日



<2024 年度（令和 6 年度） 総括>

アートやデザインを通じた社会連携・地域連携を推進するアーツコミッション・ヨコハマ事業では、2024 年度も様々な活動を通じアーティストやクリエイターとの協働を促進し、新たな価値創造につながる機会を創出しました。

【1】相談・コーディネート

横浜で活動するアーティストやクリエイター、一般企業、行政やまちづくりに携わる団体・企業からのご相談 111 件にワンストップで対応しました。

ベ이스ターズ通り振興会「カラーテープアート」、横浜市にぎわいスポーツ文化局「こどもアートみこしワークショップ」、旭区こども未来発見事業「50 年後、自分たちのまちに「あったらいいもの」をデザインしよう。」などで、横浜のクリエイター等が活躍しました。

【2】助成事業

アーティストのキャリア形成を支援する「ACY アーティスト・フェローシップ助成」では、採択された 5 名のアーティストが横浜市内に滞在し創作活動を展開しました。アーティストからは「横浜市内で新しい人や情報と出会う機会を得られた」、拠点からは「街への新たな視点を得た」「新たな人とつながった」という声が寄せられ、キャリアを確実に支援し、また、横浜の文化や資源を新たな視点で捉え直すきっかけを作りました。

助成対象期間後の横浜市内での活動を支援する「ACY アーティスト・フォローアップ助成」では、2024 年度は 4 名のアーティストに支援し、横浜市内での発表が継続的に行われています。

また、今年度は「ACY アーティスト・フェローシップ助成」の評価に関する共同研究を九州大学中村美亜研究室とともに実施し、報告書を作成しました。

【3】情報発信

横浜市内のクリエイターを紹介する「横浜市クリエイターデータベース」の登録件数は 84 組となりました（対前年 2 組増）。

横浜の芸術文化活動を紹介する「ヨコハマ・アートナビ」は、閲覧者数が 70 万 PV を越えました（対前年+3 万 PV）。



相談・コーディネート
「こどもアートみこしワークショップ@祝・野庭住宅 50 周年 秋のふれあい祭り」



助成事業
鎌田友介 トークイベントの様子

【4】プラットフォーム事業

文化芸術が社会とつながることでの可能性を市民と共有し、ネットワークを広げる「**ACY フォーラム**」。今年度は「子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」をテーマに当事者のユース世代も登壇。54名の来場者の9割が満足と回答し、「ユースの声がとてもよかったです。自分に何ができるかな？と考える機会になりました。」等の声が寄せられました。

横浜のクリエイター等が各地域を視察し学び得た知見を横浜へフィードバックする「**令和の横浜使節団**」では、富山県西部を18名が訪問しました。アンケートでの満足度は全員5点満点と非常に高く、「自身の企画に活かしている」「大学の授業で事例として紹介している」といった意見から、横浜での展開が確認できました。また、報告会には14名が参加し、「様々な立場で活動する人が、別の視点で捉えた感想を聞くことができ、参考になった」とのコメントがありました。

クリエイターのネットワークや活動を発信する「**関内外 OPEN!**」では、若い世代の幹事たちがミーティングを重ね《いっかい集合！また今度！》をテーマに公共空間を活用したイベントやオープンスタジオを実施。886名が参加しました。また、長年の活動を通じて地域との関わり方の可能性を示しクリエイターの集積が地域の魅力の一つになっていると評価され、「第11回 横浜・人・まち・デザイン賞」を受賞しました。

横浜発の“まちなか”アートフェア「**ミナトノアート**」は馬車道駅構内を活用し、ブースやパフォーマンス、トークを通して、6000名にアートと出会う機会を届けました。また、国際アートフェア「Tokyo gendai」の開催期間中に大型アート作品展示を横浜市役所アトリウムで開催するなど、活動の幅を広げています。

「**ACY 感謝祭**」ではACYの活動を広く紹介する機会として、活動紹介展示と報告会を開催しました。報告会の第一部ではACYアーティスト・フェローシップ助成のアーティスト、拠点運営者、審査員らが活動を振り返りました。第二部は九州大学中村教授が評価に関する共同研究の報告を行い、評価や指標を提示しました。報告会と同時開催のワークショップに合計117名が参加し、来場者からは「拠点や支援者との関係が作品に影響する気づきがあった」「評価手法が参考になった」といった意見が聞かれ、多面的な支援の意義を確認できました。



ACY フォーラム Photo:大野隆介



関内外 OPEN!16 Photo:中川晃太

【1】相談・コーディネート

相談件数（2024年4月～2025年3月） 総数 111

内容	件数	相手方	件数
専門協議・助言	49	アート系	38
紹介／マッチング	3	クリエイター系／創造産業系	18
DB登録希望	9	一般企業	24
広報支援	19	行政	21
助成	12	市民団体	3
視察／調査／取材	6	大学	5
情報提供	11	オーナー	1
移転	0	マスコミ	0
その他	2	その他	1
合計	111	合計	111

〈具体的なマッチング事例〉

■「カラーテープアート」

相談者：ベ이스ターズ通り振興会

企画：スタミナアートカンパニー

内容：「地域の人たちを巻き込んで壁画を描くワークショップを実施したい」との相談に、企画へのアドバイスに加えて、色適切なアーティストを紹介しました。開催当日は、子どもから大人までが参加し、にぎやかで豊かな時間となりました。



Photo:中川達彦

■「こどもアートみこしワークショップ@祝・野庭住宅 50周年 秋のふれあい祭り」

相談者：横浜市にぎわいスポーツ文化局

企画：似て非 works

内容：アップサイクルやアートを活かしたまちづくりを目指したいとのことで、似て非 works をご紹介し、初回の打合せに同席しました。



■旭区こども未来発見事業

「50年後、自分たちのまちに「あったらいいもの」をデザインしよう。」

相談者：旭区 区政推進課/地域振興課/こども家庭支援課

企画：安食真 [有限会社スタジオニブロール]

内容：GREEN×EXPO 2027 の関連企画として実施する中学生向けのワークショップについて、絵を描くことだけを目的とせず、作品制作のためにテーマ設定を設けることを提案。スタジオニブロールを紹介しました。



【2】助成事業

1. 2024 年度 ACY アーティスト・フェローシップ助成

2016 年度から続けてきたアーティストのキャリア形成を支援するアーティスト・フェローシップ助成を発展させたプログラム。アーティストは、必要な資金やネットワーク、新しい表現や活動の場所の獲得を通して自身のキャリアアップを目指しました。また、ACY は事業実施の運営協力や市内の団体関係者をつなぐなどアーティストの横浜市での活動について多角的なサポートを行いました。

応募総数：110 件（美術 72 件、舞台芸術 36 件／書類不備 2 件）

採択件数：5 件

交付総額：5,000,000 円（1,000,000 円×5 名）

募集期間：2024 年 3 月 7 日（木）～4 月 9 日（火）

審査会：2024 年 5 月 18 日（土）

活動報告会：2025 年 2 月 15 日（土） ACY 感謝祭内で開催

審査員：天野 太郎（東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）

岡本 純子（公益財団法人セゾン文化財団 シニア・プログラム・オフィサー）

野上 絹代（振付家・演出家、多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科専任講師）

長谷川 新（インディペンデントキュレーター）

藤原 徹平（フジワラテッペイアーキテクトラボ代表、横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授）

活動報告書：<https://acy.yafjp.org/wp/wp-content/uploads/2024artistfellowreport.pdf>

○「ACY アーティスト・フェローシップ助成」の評価に関する共同研究

アカウンタビリティ向上のため、文化的価値を測る評価方法の策定を行いました。主に 2023 年度の事業を対象に、アウトカム・ハーベスティングと発展的評価を用いました。報告書の発行、ACY 感謝祭での報告を行い、来場者からは「地域やアートという難しく曖昧な取組みを評価する糸口が見えたことはとても有意義だった」等の感想が寄せられました。

研究担当 国立大学法人九州大学大学院芸術工学研究院 中村美亜研究室

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 経営企画・ACY グループ

実施記録 オンライン会議（編集を含む）9 回 [計約 15 時間]、対面ワークショップ 2 回 [計約 7 時間]、現地調査 1 回（2 拠点を訪問）[計約 7 時間]、オンラインインタビュー 5 組 6 名 [計約 5 時間]

報告書 「ACY アーティスト・フェローシップ助成」の評価に関する研究報告書

ーアーティストの創作活動支援の価値を可視化する試み

発行:公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 経営企画・ACY グループ

https://acy.yafjp.org/wp/wp-content/uploads/acy_artistfellowship_evaluate_report.pdf

(1) 鎌田友介
滞在：ARUNŌ-Yokohama Shinohara-



トークイベントの様子（2025年1月、ARUNŌ）

本助成で実施した活動

新作に向けて、原三溪および三溪園に関してのリサーチを、横浜と韓国を中心に行いました。ARUNŌ滞在時には、横浜開港資料館や横浜中央図書館などでの文献調査に加え、三溪園の古建築や蒐集した美術品について調査。また、韓国では、1918年に朝鮮の首都京城(現ソウル)に設立された朝鮮農林株式会社に関する調査を実施しました。リサーチの内容をまとめて共有するトークイベントでは、専門家も交え意見交換し、作品制作に向けて活動を進めています。

滞在①：2024年12月17日（火）～12月23日（月）@ARUNŌ

調査：2024年12月24日（火）～12月27日（金）@ソウル

滞在②：2024年12月28日（土）～2025年1月8日（水）@横浜

トーク：2025年1月6日（土）ARUNŌ

ACYのサポート内容

滞在サポート、拠点との交流会実施、広報協力、トークイベント運営サポート、専門家紹介

アーティストプロフィール

美術家。歴史や社会の状況を反映するとともに、国家の文化やアイデンティティ形成のツールにもなる建築をテーマに美術と建築を横断する活動が続ける。近年は日本占領下の韓国や台湾で作られた日本家屋やアメリカ合衆国で焼夷弾実験のために作られた日本村の設計などの調査を通し、異なる歴史的背景と場所において日本家屋が孕んだ多様な意味を描き出すプロジェクトを手がける。近年の主な展覧会に「Geopoetics: Changing Nature of Threatened Worlds」（国立台湾美術館、2023年）、「ホーム・スイート・ホーム」（国立国際美術館、2023年）など。

鎌田さんは「今後も定期的に横浜に通い、調査を継続して作品を制作したい。横浜や韓国で発表したい」と展望を語りました。拠点運営者からは「新横浜は離れた場所にいるアーティストやクリエイターが集まるには良い場所だという視点をもらえた」、審査員からは「今回をきっかけに原三溪に関わる歴史研究者・アーティスト・建築家などの交流が活発になる機運もあり、長期的な運動に展開すると面白い」とふりかえりました。

(2) 工藤 春香
滞在：左近山アトリエ 131110



展覧会「わたしたちがいるために」会場風景
(2025年1月、左近山アトリエ 131110) photo:西山功一

本助成で実施した活動

2021年から障害当事者運動のリサーチを続けてきた工藤春香は、横浜における障害児の「親の会」の活動をリサーチし、その発展と歩みを探りました。「親の会」の関係者や地域コーディネーター、地域訓練会の運営委員会などへの取材を重ねました。また、左近山特別支援学校や地域訓練会に関わる育児中の母親たちが、作品創作を通じて自分の時間を持つワークショップを実施。今回の活動を通じて制作した作品で構成された展覧会「わたしたちがいるために」を左近山アトリエ131110で開催しました。

ワークショップ①：2024年9月18日（水）、25日（水）、30日（月）@左近山特別支援学校

ワークショップ②：2024年10月2日（水）、7日（月）、9日（水）@左近山特別支援学校

滞在：2024年11月18日（月）～11月24日（日）@左近山アトリエ131110

展覧会：2025年1月21日（火）～2月9日（日）@左近山アトリエ131110

ACYのサポート内容

市内団体紹介、市内学校打合せ同席、滞在サポート、広報協力、WS運営サポート

アーティストプロフィール

アーティスト。東京都生まれ。社会的な課題へのリサーチを基に、社会の周縁におかれる立場の人々への想像から、テキストやオブジェ、映像を組み合わせたインスタレーションを制作している。コレクティブ「ひととひと」メンバー。主な展示に障害者政策と当事者運動の100年の歴史を取り扱った「MOTアニュアル2022私の正しさは誰かの悲しみあるいは憎しみ」（東京都現代美術館、2022年）、「ひととひと」企画展「女が5人集まれば皿が割れる」（北千住Buoy、2021年）

工藤さんは「普段美術と接点がない福祉団体にもつながれた。個人の活動では難しい、新しいチャレンジができた。展覧会はカフェの常連の方が見てくれるなど現代美術のファン以外の方にも見てもらえる機会となり貴重だった」と話します。拠点運営者は「近いけれどご縁がなかった左近山特別支援学校ともつながりができた。展覧会ではランドスケープを担うスタッフもサポートし、空間の使い方を広げる良い機会になった」審査員からは「レジデンス、インタビュー、資料渉猟、ワークショップ、展覧会、記録集とここまでやらなければならない理由があった」と評しました。

(3) 敷地 理

滞在：Murasaki Penguin Project Totsuka



プレゼンテーションの様子（2024年8月、MPPT）

本助成で実施した活動

新作に向けたリサーチを京都と横浜で進めました。京都では能や日本舞踊のトレーニングプログラムに参加し、横浜では毎日複数のゲストを迎えながらリサーチを展開。能にみられる「生きている体で表現される亡霊」や「遅延した声と身振り」に着目し、特に『井筒』に表れる多重化したジェンダーの表象に関心を寄せました。プレゼンテーションでは、リサーチの成果を共有しつつ、能や日本舞踊の要素とLap Danceを組み合わせた新作の手がかりを探り、来場者との意見交換を重ねました。

滞在①：2024年8月14日（水）～20日（火）@Dance Base Yokohama / 急な坂スタジオ

滞在②：2024年8月21日（水）～27日（火）@MPPT

プレゼンテーション：2024年8月25日（日）@MPPT

ACYのサポート内容

専門職員紹介、滞在サポート、プレゼンテーション運営サポート、広報協力

アーティストプロフィール

振付家、ダンサー。ベルギーと日本を拠点に活動。外側から自分を見ることができない中、自分に最も近い物質で構成された他者の身体を見ることを通じて、どの様により強い現実感を捉えられるかに興味を持つ。その過程において、まなざしの政治性、暴力性に注目しながら人間の身体に対するあらゆる識別方法を曖昧にし、一時的に作り変えることに関心を抱いている。

敷地さんは「横浜のスタジオの方たちとつながりを持てた。自分にはない視点でのアドバイスをもらえたことが貴重な機会になった」と言い、拠点運営者は「敷地さんは日替わりでゲストを招聘し、様々な方に MPPT を知ってもらう機会になった」と話します。審査員は「lap dance と日舞を合体させた試作は面白く、舞台に上がった一人の観客のためのダンスを、大勢の観客が観るという構成は次元がねじれたような体験だった」とコメントしました。

(4) 永田康祐
滞在：Co-coya



ワークショップの様子（2025年2月、Co-coya）

Photo:工藤葵

本助成で実施した活動：

「食」を視点に、映像作品やコース料理形式の作品を制作する永田康祐は、中山に滞在し、農場や養鶏場、ブリュワリーなど、食や発酵に関わる生産者や実践者をリサーチしました。滞在最終日には、言語や食文化を翻訳的視点から考察する《Translation Zone》(2019)の上映に加え、中山で出会った食材で、「翻訳」をテーマにした料理を考案し、制作しました。中山での滞在や交流を通して、「都市／農村部」という二項対立の曖昧さについて考察する機会となり、新作につながる視点を得ました。

滞在：2024年9月25日（水）～10月1日（火）@Co-coya

展示：2025年1月31日（金）～3月23日（日）@東京都写真美術館

ワークショップ：2025年2月24日（月・休）@Co-coya

ACYのサポート内容

拠点との交流会実施、滞在サポート、広報協力、WS運営サポート

アーティストプロフィール

1990年愛知県生まれ、神奈川県を拠点に活動。自己と他者、自然と文化、身体と環境といった近代的な思考を支える二項対立、またそこに潜む曖昧さに関心をもち、写真や映像、インスタレーションなどを制作している。近年は、食文化におけるナショナル・アイデンティティの形成や、食事作法における身体技法や権力関係、食料生産における動植物の生の管理といった問題についてビデオエッセイやコース料理形式のパフォーマンスを発表している。

永田さんは「チームを組んで制作し作品のスケールを大きくできたこと、食や農業、発酵に関わる人に出会い、自分と違う視点で活動する方の視座が知れたことが良かった」と話します。拠点運営者は「今年は濃密な関係が生まれた滞在という印象。面白い人がまちに来ると人に言いたくなるし、こういった出会いで変化が起こる」、審査員は「食は国や地域のローカルなテーマである一方、郷土愛やナショナリズム、グローバル化での移入移出も意識され、このプロジェクトが大いに期待できる」と声を寄せました。

(5) 野村 真人
滞在：アートスタジオ アイムヒア



上演《吉日再会》(2024年11月、アートスタジオ アイムヒア)
Photo:レトロニム

本助成で実施した活動：

「分身」と「観客」というキーワードをもとに近年の作品や活動を編集し、演劇作品を上演と展示として発表しました。精神科訪問看護師と俳優の親子による《吉日再会》の上演や、自身の墓参りをきっかけに制作した《そうか、おまえいまそこにいるのか》、高齢者福祉施設の利用者と制作した作品《わからないのがいいでしょう》等を展示。また、弘明寺の人々から観客席となる椅子を借りるプロジェクトを展開し、まちと関わりながら創作活動を展開しました。

調査：2024年8月1日（木）～8月11日（日）弘明寺、長津田

滞在：2024年10月18日（金）～11月4日（月・休）@アートスタジオ アイムヒア

発表：2024年11月2日（土）～11月4日（月・休）@アートスタジオ アイムヒア

ACYのサポート内容

広報協力、滞在サポート、拠点との交流会実施、メディア紹介、公演運営サポート

アーティストプロフィール

演出家。レトロニムのメンバー。京都を拠点に演劇に取り組んでいる。人・場所・環境の現実的な関係に演劇を引用し、アクチュアルなフィクションに再構築する。近年は、青森県津軽地方での墓にまつわるフィールドワークや、精神医療従事者や高齢者福祉施設での聞き取り等をベースとした作品・プロジェクトに取り組んでいる。また、俳優として村川拓也作品、庭劇団ベニノなどにも参加。利賀演劇人コンクール 2018 優秀演出家賞受賞。「部屋と演劇」のメンバーでもある。

野村さんは「上演と展示というスタイルを実施でき、基準ができた。故郷と観光という新たなテーマもみえてきた。また誰かと協働して作品を作りたい」と話します。拠点運営者は「他者を尊重し向き合う姿勢を大切にしている、関係性自体によって作品が生まれていた。椅子を借りるプロジェクトを通じて商店街とアイムヒアを結び付けてくれた」、審査員は「上演と展示を通じ、様々な1人との向き合い方を体験することで、自身の他者との向き合い方にも思いが及んだ」と評しました。

2. 2024 年度 ACY アーティスト・フォローアップ助成

2023 年度の「ACY アーティスト・フェローシップ助成」に採択されたアーティストの、助成対象期間後の横浜市内での活動を支援するため、2024 年 6 月 1 日から 2025 年 1 月末日までに横浜市内で開催される、「展覧会」「公演」「上映会」に対し助成金を交付しました。その結果、アーティストは他拠点や市内文化施設を活用して成果を発表し、市民が文化芸術にふれる機会をうみだしました。

対象 : 「2023 年度 ACY アーティスト・フェローシップ助成」に採択されたアーティスト
交付総額 : 合計 900,000 円
助成件数 : 4 件
採択者 : 加藤立、坂本夏海、私道かび、山岡瑞子
対象期間 : 2024 年 6 月 1 日～2025 年 1 月 31 日
支援内容 : 相談・情報提供や人材の紹介/広報協力

採択者

■加藤立

交付額 : 200,000 円
内 容 : 2024 年度に制作した《Abstract Face》の絵画と CG を中心とし、新作の彫刻作品を含んだインスタレーション作品を展示した個展「未来のポートレート」を開催
会 場 : 横浜市民ギャラリー
期 間 : 2024 年 6 月 13 日 (木) ～6 月 23 日 (日)



Photo: 加藤立

■坂本夏海

交付額 : 200,000 円
内 容 : ①参加者や関係者を招いた託児付き上映会
②映像上映に加え、平面作品や資料等で構成された Pop-Up 展覧会
会 場 : ①男女共同参画センター フォーラム横浜
②アートスタジオ アイムヒア
期 間 : ①2024 年 11 月 30 日 (土) ②12 月 1 日 (日)



■私道かび

交付額 : 400,000 円
内 容 : 2024 年度に開催した展示「団地のこえ」を元にした短編演劇『演劇版 団地のこえ』を制作し、上演
会 場 : 左近山アトリエ 131110
日 時 : 2025 年 1 月 18 日 (土) 13:00～／15:00～



Photo: 菅原康太

■山岡瑞子

交付額 : 100,000 円
内 容 : 『Maelstrom』の上映および哲学対話の実施
会 場 : Murasaki Penguin Project Totsuka
日 時 : 2024 年 11 月 17 日 (日) 14:30～／17:30～



Photo: 中川達彦

【3】情報発信

1. アーツコミッション・ヨコハマ ウェブサイトの運営

ACY の助成プログラムやイベントなど主催・共催事業、過去のアーティスト・フェローの活動等を中心にお知らせしています。SNS (X、Facebook) でも情報発信を行なっています。

- ・ URL : <https://acy.yafjp.org/>
- ・ 内容 : ACY 紹介、ACY サービス内容、ニュース、実績から構成されたサイト。
- ・ アクセス数 : 673,395 (前年度 1,322,156)
- ・ 備考 : より利便性と安定性を高めるため、来年度にサーバー移管を行う準備を行いました。

2. 横浜市クリエイターデータベースの運営

主に企業や行政等のパートナーとなりうるクリエイターを紹介しています。

- ・ URL : <https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase/>
- ・ 内容 : クリエイターの制作事例、得意分野、会社概要を紹介するページで構成されたサイト。
- ・ 登録者数 : 84 組 (うち今年度 5 組、市外移転に伴う登録解除 3 組、前年 82 組)
- ・ 登録者 : グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っているクリエイター、もしくはその方が代表者を務める法人等。
- ・ 想定利用者 : 企業、行政各部局、NPO 法人等
- ・ アクセス数 : 142,010 (前年度 181,019)

3. ヨコハマ・アートナビの運営

横浜の芸術文化活動を紹介しています。

- ・ URL : <https://artnavi.yokohama/>
- ・ 内容 : 主に、アートイベント、アートスポット、特集で構成されたサイト。
- ・ 施策 : 昨年同様、安心安全なサイト運営を基本としつつ、夏休み、冬休み子ども特集を昨年より長期間で実施し、子育て世代向けに Instagram で広告を出稿した結果、前年度より SNS (X、Instagram) 経由の流入数が増加し、ページビュー数、ユーザー数が向上しました。また、7 月 1 日から横浜市子育て応援サイト「パマトコ」との連携を開始しました。
今後、イベント登録者数増のため、当財団の後援名義申請者のアートナビ登録の徹底、次年度上半期中のアートナビ登録を奨励する新規チラシ作成・配布、SNS (X, Instagram) アートナビ登録を奨励する文言を追加したプロフィール変更を検討します。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ・ アートイベント情報数 | 1,984 (前年度 2,176) |
| ・ アートイベント新規登録者数 | 105 (前年度 128) |
| ・ アートスポット掲載数 | 208 (前年度 205) |
| ・ ページビュー数 (PV) | 700,476 (前年度 674,468) |
| ・ ユーザー数 (UU) | 264,940 (前年度 245,157) |

【4】プラットフォーム事業

1. ACY フォーラム vol.4「続・子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」



Photo:大野 隆介

2023 年度に引き続き、「子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」をテーマとした実践者による事例紹介とディスカッションを行うフォーラムを実施しました。文化芸術はどのように居場所・学び場づくりに寄与できるか、学校や家庭以外の社会教育・社会包摂の場の作り方を考えました。今年度は中高生の活動に注目し、横浜および全国各地の事例を紹介とともに、ユース世代にも登壇いただき、子どもの学びや居場所づくりにおける文化施設や地域の連携の可能性を探りました。

開催概要

日時：2024 年 8 月 22 日（木）13:30～15:30

会場：横浜市市民協働推進センター スペース A・B

参加費：無料

参加者数：54 名

主催：アーツコミッション・ヨコハマ

共催：横浜市にぎわいスポーツ文化局

令和 6 年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

第一部：事例紹介

登壇：ArtLabOva「横浜パラダイス会館」（神奈川県横浜市）

特定非営利活動法人こころのまま「心のままアートプロジェクト」（静岡県沼津市）

水戸芸術館現代美術センター「高校生ウィーク」（茨城県水戸市）

第二部：ディスカッション

モデレーター：田中真実（認定 NPO 法人 ST スポット横浜 副理事長・事務局長）

市内の教育・福祉関係者や東京近郊の文化施設の関係者等が来場しました。来場者アンケートでも 9 割以上が満足と答え、各団体へのエールのメッセージのほか「大人のねらいや思い以上のことを子どもたちが感じていることに感激しました。そうした信頼を築けるまで持続することの大切さと難しさにも考えをめぐらせました」「10 代、ユースの当事者の声がとてもよかったです。自分に何ができるかな？と考える機会になりました。」といった声をいただきました。

フォーラム終了後に名刺交換をする様子も見られ、学びとネットワークづくりの場となりました。

2. 令和の横浜使節団



「令和の横浜使節団」は、まちづくり・デザイン・ものづくり・文化などをテーマに横浜の人々が他都市を訪れ、その地の人々や文化と交流し、学び得た知見を横浜にフィードバックする視察交流体験プログラムです。今年度は富山県西部の城端・砺波・井波・高岡を訪れました。一般社団法人富山県西部観光社「水と匠」プロデューサーの林口砂里さんのご案内のもと、歴史・文化・民藝・伝統産業・リノベーションなどの観点から、それぞれの地域での取り組みを視察し、交流を行いました。また、訪問から少し間を開けた9月27日に横浜にて振り返る報告会を行いました。地域特有の歴史や文化を活かした事例を学び、横浜でも応用可能な視点を得る有意義な機会となりました。

開催概要

【訪問】

日 時：2024年9月5日（木）～6日（金）

場 所：富山県西部

訪問先：散居村展望広場、善徳寺、杜人社、光徳寺、若鶴酒造、井波のまち、瑞泉寺

案 内：林口砂里（一般社団法人富山県西部観光社 水と匠）

高坂道人（光徳寺住職）、

島田優平・前川大地（ジソウラボ）

参加者数：18名

【報告会】

日 時：2024年9月27日（金）

会 場：BUKATSUDO HALL

参加者数：14名

主 催：株式会社リビタ、アーツコミッション・ヨコハマ

参加者からは「様々な立場で活動する人が、別の視点で捉えた感想を聞くことができ、参考になった」「明確なターゲット選定や地域一体の原動力、ライフスタイルを提案している（観光協会職員）」「横浜への展開可能性としては、創造的人材の流動性・移動性を高めること、行政区分に左右されないまとまりを生かすこと、生活の質への眼差しを持つこと（大学准教授）」という所見があったほか、「自身の企画に活かしている」「大学の授業で事例として紹介している」という声があり、横浜での展開が確認できました。

3. 関内外 OPEN!16 《いっかい集合！また今度！》



Photo：中川晃太

関内エリアを中心としたクリエイターらの団体と協働し、クリエイター同士や地域とのネットワークを発信する事業。関内桜通りをメイン会場に、クリエイターの仕事を巡るツアーや街中での対話の場を設けることで、新たな交流とアイデアを生むイベントとなりました。ACYは準備段階から企画や広報のサポートを行い、今年度から若手に引き継がれた幹事を支えました。クリエイターと地域がつながることで、まちが創造性にあふれる場となり、関内がより魅力的な地域になっています。

開催概要

日時：2024 年 11 月 3 日（日）11:00～16:00

会場：関内桜通り、トキワビル/シンコービル、泰生ポーチ

参加者：合計 883 名

主催：関内外 OPEN!16 事務局

（関内外クリエイターズ／アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団））

共催：横浜市にぎわいスポーツ文化局

協力：N&R FOLDINGS JAPAN、オンデザインパートナーズ株式会社、株式会社泰有社、
株式会社ボイズ、株式会社横浜アーティスト、関内桜通り振興会、京浜急行電鉄株式会社、
横浜高速鉄道株式会社

令和 6 年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

実施プログラム

(1) TABLE TALK PARTY

日時：11 月 3 日（日）11:00～12:00、13:00～14:00

参加者：60 名

(2) 変身！WORK SHOP

日時 11 月 3 日（日）11:00～14:00

参加者 61 名



「変身！WORK SHOP」 Photo：中川晃太

(3) OPEN STUDIO TOUR!

① トキワビル／シンコービル

日時 11 月 3 日（日）12:00～13:00

参加者 22 名

② 泰生ポーチ

日時 11 月 3 日（日）13:00～14:00

参加者 21 名



「OPEN STUDIO TOUR!」 Photo：中川達彦

(4) カンナイガイコレクション

日時：11 月 3 日（日）14:15～15:00

参加者：103 名

(5) インタビュー（関内外 OPEN!に参加してみたらこんなことに繋がりました！）

日時：11 月 3 日（日）15:10～16:00

参加者：25 名

参加クリエイター（順不同）

阿部清（さくら WORKS<関内>）、笠原香織（アート未来図）、コーヒータロー（D8/Vlag yokohama/ウラヨコ）、須賀真之（若葉町ウォーフ）、畑洋一郎（YOXO BOX/Peatix Japan）、増田卓哉（本と工房オドリバ）、三浦佑介（design office shubidua）、武藤智花（コレクティブ・ペーパー・エスティックス・ジャパン）宇田見飛天（アーティスト）、たなかまさき（アーティスト）、横濱未来堂、竹中里来、北杜學舎（関内和明）、アトリエ・モビル、CHA、voids、モ・クシュラ、クラフトワークス、スタミナアートカンパニー、泰生ポーチフロント、船本由佳（ライフデザインラボ）、月森忍、中村ちひろ、佐藤恵美、OJIYU、こばやしのあ（SUMOGREE）、松本郁里（横浜インテリアサポートセンター）、横浜未来堂、関内まちづくり振興会+関内桜通り振興会の会員、後藤清子（株式会社ピクニックルーム）+保育士さん+園児、秋元康幸（横浜国立大学+横浜市立大学 客員教授、NPO 法人 BankART1929 副代表）、サークルオブフレンズ、一色ヒロタカ（株式会社 irodori 一級建築士事務所）、安食真（studio nibroll）、桂有生（横浜市）、伊藤祐也（83graphics）、熊谷玄（STGK.Inc 代表）、千代田彩華（オンデザイン）、岩穴口颯音（オンデザイン）、方瀬りっか（オンデザイン）、小林璃代子、姜美宇

クリエイターと通行人が気軽に挨拶や会話を楽しむ「TABLE TALK PARTY」は、ストリートにおける「つながる」方法を提案し、「カンナイガイコレクション」では特設ランウェイにクリエイターや地域の人々が登場し、多彩な活動を披露。来場者アンケートでは、8 割以上の人が「このイベントに参加して新たな交流は生まれた」と回答し、「初めましての人とお話できて刺激をうけました」という声が寄せられました。

【関連】第 11 回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞



（左から）関内まちづくり振興会 理事 平山正義さん、関内外クリエイターズ代表幹事 安食真さん、関内桜通り振興会 会長 西田司さん

関内外 OPEN!が、地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動として認められ、「第 11 回 横浜・人・まち・デザイン賞〈地域まちづくり部門〉」を受賞しました。15 回の開催を重ね、都市における新しい地域との関わり方の可能性を示していること、また、クリエイターが集まっていることが地域の魅力の一つになっていることが評価されての受賞となりました。また、活動を支援した団体として「関内まちづくり振興会」「関内桜通り振興会」も支援賞を受賞されました。表彰式日時：5 月 12 日（日）10:00～12:00

4. ミナトノアート 2024



INSTALATION ART と LIVE PERFORMANCE Photo:東玄太

横浜発の“まちなか”アートフェア「ミナトノアート」。若手からベテランまで横浜に所縁のある様々なアーティスト達に加え、ギャラリー、作品展示をしている飲食店、アートのワークショップなどのセレクトされた45ブースを展開。馬車道駅の空間を使ったインスタレーションや、ライブパフォーマンス、トークショーなど、五感で楽しめるプログラムを設えました。来場者がミナトノアートでの出会いをきっかけに横浜の街をアートを理由に回遊すること、また出展者同士のコミュニケーション促進やコミュニティ形成の創出することを目標としました。ACYは実行委員会に参画し、公共空間活用や広報等を担いました。

開催概要

日時：2024年11月23日（土）、24日（日）11:00～17:00

会場：みなとみらい線 馬車道駅構内

来場者数：6,000名（*但し、駅構内展示物に関しては、馬車道駅一日平均乗客数42,000人を加味）

主催：ミナトノアート実行委員会

委員長：田口竜太郎（株式会社アマネプロ）

事務局長：木村いよ（Atelier fourteen）

顧問：内藤正雄（株式会社ファボリ）

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

共催：横浜市にぎわいスポーツ文化局

協力：横浜高速鉄道株式会社

令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

デザイン・映像・WEB制作・記録

ロゴデザイン：大原大次郎

アートディレクション：三村漢（niwano niwa）

デザイン：大貫茜（niwano niwa）

会場パネルデザイン：加藤花苗

什器、アートテーブル：BankART1929

ワゴン：ORIICHI -Foldable market stall- 株式会社 N and R Foldings Japan

WEBエンジニア：亀谷晶太郎

実施プログラム

(1) BOOTH

出展者数：45

(2) INSTALLATION ART

(“POINT ZERO” WA!moto×minatonoart)

(3) ARTGATE (Samaya Design)

(4) GATHERINGPLACE (似て非 works)

(5) LIVE PERFORMANCE (WCN MOB)

様々なジャンルのアーティストによる即興パフォーマンス
日時：11月23日(土) 13:00/15:00

(6) TALK SHOW 川崎義博「都市と環境」

～サウンドアート／サウンドスケープからのアプローチ～

日時：11月24日(日) 14:00



ARTGATE Photo:東玄太



GATHERINGPLACE Photo:東玄太

来場者からは「皆さんそれぞれ魅力的な取り組みをしていてどのブースも個性的で見ているだけでも楽しめました」という声があり、出展者からは「アートに特化したイベントは珍しく、面白かった。作家それぞれの想いも聞けて刺激になった(初参加)」という声や「今後いつか新しいビジネスや企画が生まれる機会になりそう」という回答がありました。

【関連】ミナトノアート+

国際アートフェア Tokyo Gendai の開催期間を中心に、「YOKOHAMA ART in Summer」と題して横浜市役所、創造界隈拠点、横浜美術館において様々なアートプログラムが展開されました。ミナトノアートは横浜市役所アトリウムでの作品展示、ワークショップを企画運営しました。

日程：2024年7月4日(木)～7日(日) 10:00～17:00

会場：横浜市役所アトリウム



Photo:東玄太

【関連】ヨコハマ西口アートプロジェクト 2024

2023年10月より、横浜駅西口エリアの公共空間に壁画アートを制作。アートを通じて地域への親しみや環境美化を促進し、ポイ捨てゴミの減少やイメージ向上といった効果が見られました。これらの公益性が認められ横浜市の特例許可をうけ、描画面積を壁面の30%から100%に拡大しました。地域価値向上を目指すエリアマネジメントと連携して取り組みを進めています。期間：2024年12月7日(土)より

会場：横浜西口・幸川橋周辺

アーティスト：Gravityfree、KensukeTakahashi、LuiseOno

主催：一般社団法人横浜西口エリアマネジメント

後援：横浜市にぎわいスポーツ文化局、エキサイトよこはまエリアマネジメント協議会

企画制作：ミナトノアート実行委員会、ガーデングローブ合同会社



Photo : SHAPE WORKS

5. ACY 感謝祭



Photo:大野隆介

ACY の 1 年間の活動報告と、次年度への展望を広く共有することを目的に、報告会と活動紹介展示の二本立てで開催しました。報告会では、「ACY アーティスト・フェローシップ助成」に採択された 5 名のアーティストと、受け入れ拠点の運営者、審査員を務めた専門家が登壇。それぞれの活動成果とプロセスを振り返りました。あわせて、ACY の文化的価値や芸術支援の意義を評価する方法について、九州大学の中村美亜教授による共同研究の成果報告も行いました。

さらに、ACY の協働相手である関内外クリエイターズやミナトノアートのメンバーによるワークショップを開催し、子どもから大人まで誰もが楽しめる空間を創出しました。

開催概要

報告会

日 時：2025 年 2 月 15 日（土）14:00～18:00

会 場：横浜市役所アトリウム

参加費：無料

参加者数：117 名（報告会：76 名 ワークショップ：41 名）

会場構成：小泉瑛一（about your city）

(1)第一部

「アーティストがまちにすることで見えた風景～アーティスト・フェローシップ助成活動報告～」

アーティスト・フェロー 5 名による活動報告と、受入拠点の運営者、年間を通じて活動をみてきた審査員も登壇し、多角的に助成プログラムでの活動を振り返りました。

①敷地理（アーティスト・フェロー／ダンサー・振付家）

黒田杏菜（Murasaki Penguin Project Totsuka）

野上絹代（審査員／振付家・演出家）

②工藤春香（アーティスト・フェロー／アーティスト）

熊谷恵美子（左近山アトリエ 131110）

長谷川新（審査員／インディペンデントキュレーター）

③永田康祐（アーティスト・フェロー／アーティスト）*映像出演

関口春江（Co-coya）

天野太郎（審査員／東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）

④鎌田友介（アーティスト・フェロー／美術家）

若林拓哉（ARUNŌ -Yokohama Shinohara-）

藤原徹平（審査員／フジワラテッペイアーキテクツラボ代表）

⑤野村真人（アーティスト・フェロー／演出家）*オンライン参加

渡辺篤（アートスタジオ アイムヒア）

岡本純子（審査員／公益財団法人セゾン文化財団 シニア・プログラム・オフィサー）

(2)第二部

「アーティストの創作活動支援の価値を可視化する調査研究の報告会」



Photo:大野隆介

第 2 部では文化的価値を測る評価指標の策定とアカウンタビリティの向上を目指した共同研究に基づき、プロセスや評価結果や指標などの成果について中村教授より発表しました。

登壇者：中村美亜（九州大学大学院芸術工学研究院教授）

(3)ワークショップ



Photo:大野隆介

「関内外クリエイターズ」や「ミナトノアート」のクリエイターによるワークショップを同時開催しました。

企画：関内外クリエイターズ

MO!asobi by WA!moto.STUDIO

Art Room Lumiere

活動紹介展示



Photo:大野隆介

2007年の設立から続くACYの活動年表やその活動がまちに広がった様子、そして2024年度の主催・共催事業の成果をパネル形式で展示しました。

日 時：2月7日（金）～2月17日（月）7:00～23:30

会 場：横浜市役所展示スペース A

観覧料：無料

来場者アンケートの結果、満足度は「非常に満足」「満足」を合わせて9割以上に達しました。参加者は30～60代が中心で、アーティスト・フェローの発表を目的とする声が多く、助成プログラムの関心の高さがうかがえます。印象に残ったプログラムでは、「第一部」「第二部」が同数で最多となり、アーティスト・拠点・審査員による対話や、支援制度の意義を捉え直す研究報告が来場者に強い印象を与えました。

【5】ドックヤードガーデン活用事業（施設名：BUKATSUDO）

“大人の部活が生まれる街のシェアスペース”をコンセプトに運営されている BUKATSUDO は、2024 年 5 月に 10 年の契約（5 社：横浜市、三菱地所株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社、株式会社リビタ、当財団）を終え、6 月よりさらに 5 年間の契約を結び、新たな段階に入りました。今年度、当財団は、「令和の横浜使節団 報告会」（2024 年 9 月 27 日（金））、「広報研修」（2025 年 1 月 28 日（火））の会場として BUKATSUDO を利用し、横浜のクリエイターや当財団職員に、BUKATSUDO の意義や事業内容を伝えました。